

令和6年度 大阪府立狭山高等学校 学校運営協議会 議事録

[第1回(令和6年6月7日)]

(分掌等より報告)

(生徒会)

クラスマッチを最初に開催しクラス作り。体育祭は有志による実行委員会で運営。文化祭にむけて動いている。一般外来者への開放に向けて検討中。土日開催を実施している学校が少なくなる中で続けていけたらと考えている。

(教務)

今年度、全府立高校の成績処理システムが大きく変更される。9月から試験運用年明け移行予定。デジタル採点は昨年より開始、入試もデジタル採点になる。

(保健)

4、5月で生徒向けの検診を一区切り。生徒向け応急手当講習会実施予定。

(人権)

1年生で拉致問題に関する授業、生徒向け人権研修ちゃんへんさんの予定。全校向けて人権の取組みは熱心におこなっている。自分事として考える機会をもたせるようにしたい。

→(委員)体育祭は有志が引っ張っているのか。

→(生徒会)今年で3回目、教員有志で編成し、部活動の生徒の協力のもと実施している。

(学校経営計画について)

(校長より説明)

中期的目標に普通科改革推進事業推進校指定を受けたことを加えた。教員の働き方改革について。グローバルと進路実現目標は大きく変わらない方向。普通科改革(特色ある普通科)の説明。

→(委員)募集は普通科ではない?

→(校長)令和8年度入学生から実施。国・府の事業として進んでいる。普通科+アルファの学びとなる。学校そのものが大きく変わるのではないことを、きちんとアピールしていくことが大事。

→(委員)普通科教育を主とする学科として動く予定であるので強化をしていく検討と、それをうまく伝えることが重要。

→(校長)地域社会のみを強調するより全体像を示したい。授業の中で地域との連携も模索中。

(進路結果について)

(進路)

推薦による進学は全国的に増加傾向。近年行き先の大学が限定的になってきている。自宅から通う大学を選び、2時間程度の通学を避ける傾向がある。結果、大阪市内、京都市、神戸方面の順。

(各推進する事業について)

(首席)

L-GIGA 事業、本年度2年目。普通教室に新たなプロジェクターが配備、これらを活用した授業を展開。本校の取組が評価され、府下全校に配備拡大。本年度は遠隔授業についての研究を進める。1人1台端末の活用が柱になる。全ての学校ができるものを発信するのが本校の使命。7月17日に古典と公共で公開授業実施予定。遠隔地配信の授業を実施。授業風景を配信する予定。

→ (委員) 不登校の生徒も単位認定されるようになるのか？

→ (首席) 学校・同時双方向なら認定される方向で進む可能性。学習の保証も重要だが、登校して学校生活を送ることも重要。

→ (委員) 対面授業の在り方も含め、今後検討されていくのでは。見守っていく。

(教員の ICT 活用について)

(首席) プロジェクター等の使用について本校は相当高い割合と考える。授業で 2/3 は使っているのでは。Wi-Fi の不具合は昨年の反省を活かして人数調整等おこなっている。

→ (委員) 投影内容をそのまま配信することは可能か？

→ (首席) 技術的に可能であるが、研究している。画面共有も便利であるが課題もある。

→ (委員) 現場が大きく変わっているが AI などの話は？

→ (首席) 現在色々模索している。生徒は CHAT GPT 等を使っていないが、今後の検討課題。

[第2回(令和6年11月15日)]

(生徒指導部)

懲戒件数について今年はまだ無し。定員割れした学年への懸念があったが狭山生らしい生徒がきてくれている。遅刻の増加傾向は気になる。

(生徒会)

土日開催。文化祭 2100 名を超える来客。来場者対応：友人はチケット制、19 歳以上の近隣の方に入場いただく。大きなトラブルなし。生徒会に企画の掘り起こしを指導中。金券が不足するトラブルがあり、次年度は電子マネーなどの案も検討。来週自主的に共同募金を実施。

(各事業について)

(首席)

L-GIGA 事業 2 年目。7 月、10 月、11 月公開。12 月 25 日研究フォーラムで発表予定。

→ (委員) 狭山南中もスマートスクールモデル校となっているが ICT の活用の底上げをしてきた。実際の高校の活用率は？

→ (学校) プロジェクターはほぼ全員利用。HR など話し合いの場で活用は進んでいる。クラスルームでの連絡活用が進んでいる。業務改善としてスプレッドシートを活用した欠席連絡によって朝の電話件数は減っている。

(普通科改革推進事業について)

6 時間の探究を含む週 32 単位での新カリキュラム策定予定。先進校視察実施。大学の探究型入試への対応も視野に入れる。最終目標として国公立での進路実現を進めていきたい。

→ (委員) 部活動の時間が減るのではないかという懸念はないのか

→ (首席) 議論を進めていく中で進路実現のために減単位は逆行すると考えている

→ (委員) 国公立と私立で探究型選抜の質が違う。狭山が狙っていくこともよいのでは。

→ (進路) 探究的な学びを進めていくと自分で学んで気づく生徒が伸びている。探究とは何かについての議論を重ねている。知識・技能を深めること、資質能力の育成が課題となっている。最終的に自分が能力を高めていく、社会資本の中で狭山が育っていったら。

→ (委員) 地域を学ぶということも大事だが、それはエッセンスであって、生徒がやってみたいと思うことに地域という財を提供していくことができるかが重要。地域社会のみならず大きくグローバルに考えてもよいのでは。

→ (首席) 地域のことに対する問い立てになるようにするために、第 4 次教育進行計画にあるウェルビーイング的な考え方を示してもよいのではないかと考えている。

[第3回（令和7年2月7日）]

（学校教育自己診断結果について）

生徒・保護者の回答については昨年とほぼ同じく高い評価となっている。教員の回答について昨年とは特徴的な結果となっている。教員の入れ替わりが激しい時期となっており、その中で阿吽の呼吸で行ってきたものについて新たな共通理解を進めていく必要がある。新事業の推進もあり、教員の中で色々考えてもらっている。

- （委員）阿吽の呼吸は危険であると考え、若い先生などは黙っているだけで、構成員の意識が変わっていないため不満等も出てこないまま仕事に影響が現れる当たり前のことであってもひとつひとつ確認していくことを進めてもらいたい。
- （委員）生徒の肯定的な評価が高く驚いている、授業改善について具体的なものがあれば教えて欲しい。
- （首席）授業環境の点においては効果的に ICT を活用できているのではないか。また、観点別評価が導入され、主体的な学びを毎回の授業で取り入れ、生徒が授業についてわかりやすいか、という点については全てではないが、生徒と教員の関係性の良さが根底にある。
- （人権）授業においても生徒と教員の関係性の良さが見受けられる、狭山高校生の風土と合致しているのではないか。
- （委員）肯定的意見をみた場合、学校生活においては積極的な肯定が高いもの、低いものについて見たときに、経年的にみてその増減も細かく分析する必要がある。本当に生徒のよいところを伸ばせているのかを確認する必要がある。

（新普通科事業について）

スクールミッションを具現化する新普通科の育成をめざすコア作りを進めている。探究は3年間で6単位、更に選択で2単位受講できるよう計画。国公立大学や難関大学の探究入試にも対応できる学びにしていく。

- （委員）何を売り込んでいくかが重要。増加する探究授業を中学生にどう広報していくのか、ニーズに合うものを把握し、この機会を活かして広報の準備をきちんとしてほしい。